

平成29年度高梁市立学校再編推進審議会（第15回）会議録（概要版）

1. 招 集 平成30年2月27日 午後3時00分
2. 開 会 平成30年2月27日 午後3時00分
3. 閉 会 平成30年2月27日 午後4時00分
4. 会議の場所 高梁市役所 3階大会議室1
5. 委員の出欠及び氏名

氏 名	出欠の別
山部 正	出 席
川本 雅子	出 席
肥田 吉教	出 席
湯浅 眞治	出 席
植木 哲夫	出 席
村上 鉄治	欠 席
三宅 忠篤	出 席
川上 博司	出 席
黒川 康司	出 席
大川 和恵	出 席
仲元 稔明	出 席
塩田 寿光	出 席
中山 正浩	出 席
松尾 志郎	出 席
妹尾 芳訓	出 席

6. 事務局の出席者の職氏名

職 名	氏 名
教 育 長	小 田 幸 伸
教 育 次 長	宮 本 健 二
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志

学 校 教 育 課 長	張 谷 孝 文
教 育 総 務 課 課 長 補 佐	西 川 優 子

7. 議事の内容

別紙会議議事要録のとおり

高梁市立学校再編推進審議会（第15回）議事要録概要

1. 開会

2. あいさつ

会長	<p>前は、意見聴取会での意見を、どのように答申に反映させるか審議していただいた。今日は、最終答申に向けて、加筆修正している答申案を審議していただき、最後の会となればと思っている。5月から審議し、一定の形となったのではないかと思う。本日もスムーズな運営にご協力をお願いします。</p>
----	--

3. 議事

会長	<p>1頁の「はじめに」の中、平成30年3月の部分は、今まで空欄であったが、期日が入ってきたということである。これはよいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>「行政と教育が一体となって、定住対策や産業振興の施策を推進し、市内の児童生徒数の増加や現状維持を図り、教育施策を充実するなどの取り組みを進め、それでもなお」の部分は、定住対策や産業振興は、学校がなければできないという意見から、教育だけでなく、行政も定住対策の場合は学校の事を考えなければならないということでこれを入れさせていただいた。これでよいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>その下今までは「市長」だけであったが、事務は、教育委員会が主管しているため、「並びに教育委員会」を入れさせていただいた。よろしいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>一番下「なお、改善が急がれるものについては、迅速かつ円滑に実施を図るとともに、事柄によっては、長期にわたる改善努力を継続されるよう期待します。」は、十分に改善することは難しいが、急を要する部活の問題があることや、義務教育学校については、長期に渡って検討し、どうするか判断して欲しいので、この様な表現にまとめさせていただいた。1頁はこれでよいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>2頁の囲みの中の「なお、再編にあたっては、通学手段を十分に配慮すること」は、通学手段については、スクールバスの確保などもあるので必ず再編の場合は念頭に置いて欲しいという要望も多くあったので、あえて入れさせていただいた。よろしいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>「(参考)」には、一般の方が見ても分かりやすいように、「(例；1年5人、2年3人は複式)」「(例；2年8人、3年8人は、複式。2年8人、3年9人なら複式ではないが、3年9人でも4年が7人なら3、4年が複式。)」というような複式となる具体的な例を入れた。「・小中学校共通 3学年以上の複式学級は編成できない。」は、1、2、3年の3学年を合わせた複式学級は、法的に認められていないということである。ここまではよいか。</p>
委員	<p>よい。</p>
会長	<p>今までは、補足事項と軽くかいていたが、運用について、もう少し厳しく書いたほうがよいということで、「上記の基本的な考え方の運用にあたって、児童生徒の教育のことを考えながら、次の事項を厳守し、次に掲げる準備委員会では、合意形成にむけて努</p>

	<p>力すること。」合意形成は何パーセントであるかということ示せないで、努力するという表現にしたということである。①から④を厳守しながら、基準を厳守するということである。「組織構成は、」は、最終的には準備委員会を開催するが、その委員というのは地域から色々出てくるが、要望を集約し、教育委員会で決定するということである。②の「②地元（PTAやまちづくり、コミュニティ協議会等の団体）」は、団体の中に「学校」が入っていたが、削除した。PTA一つの団体だけでも要望があれば、準備委員会を設置しなければならないということである。</p>
委員	PTAは、小中学校のPTAということか。
会長	小中学校のことを審議しているのだから、小中学校のPTAということになる。
委員	小学校のPTAが、中学校の再編を要望することがあり得るか。
会長	小学校と中学校で話し合いは必要だが、あり得るだろう。
委員	PTAに教員は含まれるか。
会長	言葉の意味としては、含まれる。PTAではなく、保護者だけにした方がよいか。
教育長	学校を削除したのは、学校から再編というわけにはいかないからである。教員が含まれても、PTAとし、保護者という表現だけにしないのは、数人の保護者の要望というわけにはいかないからである。
委員	PTAと聞くと、保護者と考える人と先生も含まれると考える人がいる。
委員	組織としては、先生も入るであろう。
会長	我々としては、PTAを一つの団体と考え、保護者を主体としたメンバーであるという解釈である。
委員	P、T、Aと一つ一つ切って考えるからであって、これでよいと思う。
会長	集団としては、PTAという集団を考え、Tである教員も入るが、教員はほとんど入ってこないと思う。言う人もいるかもしれないが、自分の学校を再編しろとは言えない。
委員	要望の時、PTA会長名で行う。教員も入っているが、保護者の代表というニュアンスである。
委員	概念として、PTAは、保護者を中心とした組織と誰しも思っている。確かに教員も入っているが、教員が、PTAの中で主導的な役割を果たすかと言えば、そうではない。あまりそこにこだわる必要はない。
会長	共通理解として、この場でPTAは保護者を中心としたものを指しているということによいか。
委員	よい
教育長	参考の小学校の所の「1、2年生合わせて8人以下」というのは誤りで、「1年生を含む場合は、2学年を合わせて8人以下」、1年生と3年生でも、8人で1学級としなければならない。
会長	それは訂正してほしい。
教育長	訂正させていただく。
会長	3頁では、ふるさと学習のところに「郷土の偉人や地域の産業等を学び、」加え、既存の教育を推進する。よいか。
委員	よい。
会長	偉人を取り上げているのは誰か。
学校教育課長	山田方谷、各地域で、成羽町は児島虎次郎、川上町は江草安彦、備中町は彫刻家の宮本隆、有漢町は綱島梁川を取り上げた読み物を作っている。

<p>会長 学校教育課長 会長</p>	<p>新年度から使われるのか。 出来上がっているのので、授業で使用する準備をしている。 4頁の「<u>4 特別支援教育の充実を図ること</u>」である。特別支援というのは、どこの市町村においても、日本においても、十分なケアをしていかななくてはならないということで、どうしても掲載しておかなくてはならない。「<u>近年、増加傾向にある特別支援教育を必要とする児童生徒に対応したきめ細やかな教育の推進</u>」は、現在も市教育委員会を中心として行っているが、一層細やかな教育を進めていくということである。特別支援教育の支援員は、どのくらいいるのか。</p>
<p>学校教育課長 会長 学校教育課長</p>	<p>小中学校合わせて19名を配置している。 支援を必要とする子供は、どのくらいいるのか。 各校に支援を必要とする子供はいる。国においては、全体の6%と言われていたが、近年は10%ぐらいと言われており、年々増加傾向にある。</p>
<p>会長 委員 会長</p>	<p>ここは、これでよろしいか。 よい。 部活動については、色々な意見が出た。「<u>5 部活動等のあり方を研究すること。</u>」では、「<u>①生徒の多様な希望にできるだけ応えられるよう部活動のあるべき姿を研究すること（例；文化部の設置、一市一区制、合同チーム編成、社会教育との連携、総合学習の取組、地域指導者の確保等）</u>」と「<u>②少人数での体育の解消について検討すること</u>」と二つのことがある。あるべき姿はどういう姿がよいのか。最終的には、中学校が再編し、人数が多くなると選択肢が生まれるということは分かりきったことであるが、現状の中で、ではどうすれば生徒の満足度を上げられるかは、非常に大切なことである。最後に教育委員会へ提案しようと思っていたが、部活動のあり方について、各中学校の校長や担当者、PTAに参加してもらい、議論をして、何らかの形で解決できる方向が出てくればとよいと思っている。早急に会議を立ち上げていただきたい。高梁独自のものを作ってほしい。一市一区制など色々問題があり困難ではある。放課後に一つの中学校へ集まって練習するには、実際には時間的なことや行き返りの手段など問題があるが、月に一度日曜日に一緒に練習すれば、少しは満足度があがるかもしれない。問題提起となるかもしれないが、どこまでしてやれるかの問題であると思う。</p>
<p>委員 会長</p>	<p>再編統合にかかわらず、部活動のあり方を研究するということか。 再編のこととは別に、諮問内容に「教育目標を達成するための教育施策のあり方」があるので、提言してもおかしいことではない。 部活動は本来教員の業務でないとして、文部科学省は現在色々議論している。外部講師を部活動の指導者としてより一層活用していこうと、県でも50人程度中学校へ外部講師を配置しているが、来年はそれを倍増し、100人にするということであった。問題は、地域に指導してくれる人がいるかどうかである。議論しながら、満足度の高い部活動を展開して行って欲しい。少人数での体育の解消について検討することについては、学校がどのように考えてやれるか、少人数をできるだけメリットに転ずるような策を考えていただきたい。 8頁は、色々な枠組みが考えられるが、一つの案として提示している。本格的には、準備委員会で地域の同意が得られるように、合意形成が高まるようにしていただきたいということである。 9頁は、「おわりに」のところで、「できるだけ納得のいく形で行えるよう、教育委員</p>

教育総務課長	<p>会が中心となって実施されることをお願いします。」は、「教育委員会が中心となって検討します。」となっていた。検討は、この場でしているのです、実施に向けてとしている。</p> <p>17、18頁は、意見聴取会などでいただいた主だった意見を抜粋という形で資料の中で載せていこうということである。抜粋した意見を選んだ基準は何かあるか。</p> <p>幅広い意見を偏らないように選んでいる。</p> <p>(会長により17頁の意見聴取会等での意見(抜粋)読み上げ)</p>
会長 委員 会長	<p>このような意見を抜粋として資料の中に掲載しようということである。よろしいか。</p> <p>よい。</p> <p>答申文書に、細部にわたる誤字脱字、文章表記の訂正等があった場合、会長と事務局へ任せていただきたい。</p>
委員 会長 委員	<p>よい。</p> <p>それでは、これを答申とさせていただきますが、よいか。</p> <p>よい。</p>
委員 委員	<p>皆さんの意見を聞き、勉強させていただいた。</p> <p>子供のためには、再編が必要だが、学校を残したいという思いもある。この審議会で話した事を、色々なところに役立てたい。</p>
委員 委員	<p>子供は、大勢の中で切磋琢磨して成長しなければならないのかなと思った。</p> <p>少子化が進む中で避けては通れない問題である。将来を見据えてどんな事が出来るのかを打ち出せるような教育の内容にしなければならないとこの会を通じて強く感じた。</p>
委員	<p>再編推進ということで、当初は抵抗があったが、検討内容は、建設的であった。再編を、まちづくりとしては、危惧している。</p>
委員	<p>小学校は、小規模でもメリットが多いが、中学校は、部活の問題もあるので、再編して人数を確保した方が、将来的にはよいのではないかなと思った。皆さんの意見を聞き参考となった。</p>
委員 委員	<p>参加させてもらってよかった。</p> <p>子供が中学生になる。東中学校区の意見聴取会の際、様々な年代の方が来られ、意見が異なるから難しいと思った。この答申が出来れば、話し合いがしやすくなるので助かる。</p>
委員	<p>意見が聞けてよかった。再編の実際の時はどうなるか分からないが、この答申が助けになる。</p>
委員	<p>余力のあるうちに再編した方がよいという意見もあるので、PTAで議題として出して話し合いをしたいと思う。</p>
委員	<p>この審議会のメンバーに20、30代の人がないのが問題かなと思った。若い人の意見も必要ではないか。</p>
委員 副会長	<p>どういう形でPTAに知らせればよいかなと思う。指針ができたことは、有難い。</p> <p>15回という回数の方に参加するのは、初めてである。素晴らしい答申になったと思う。</p>
会長	<p>お礼を申し上げる。当初はどうなることかと思った。再編の名前、委員会への不信の意見が多く出たが、それ以後はよい意見が出て、素晴らしい会となった。行政主導では</p>

なく、子供の傍に地域があり、地域の支えがなければならない。それが、デメリットがメリットとなる力になる。国の方向性は地域中心である。コミュニティスクール、ICTをできるだけ早く高梁も導入して欲しい。部活動については、子供が満足するような部活動はなかなかできないが、より満足に近づけていくのが教育委員会、先生、保護者、地域である。部活動はこのような方針でやっているというような、保護者の理解が得られるような方策をとらなくてはならない。限界はある。人数が少なくなる中で、どこまでできるかである。答申であるが、地域に出て行って話をしたということが大きい。実際に話をしたということが、今後、教育委員会、地域によい形で返っていくのではないかと思う。話し合いのできる高梁であって欲しい。一方的に行政が再編というのではなく、地域から要望を汲み上げていくというようなところから、高梁ならではの教育が出来てくるのではないかと思う。今後は、この答申をどのように市民に周知するか、それに対してどのように呼応されるか、それを教育委員会は受け止めながら、準備委員会を行い、ほとんどの方が合意されるように進めてもらえたらよいと思っている。感謝申し上げて、あいさつに代えさせていただく。

4. その他

3月議会中、会長、副会長により市長へ答申

3月中議会で各議員へ答申内容を伝える。

4月の教育委員会で答申の内容を報告

4月あるいは5月答申の内容を広報紙へ掲載

市PTA連合会総会、市まちづくり協議会連絡会議、校園長会で答申説明

5. 閉会（副会長）

長期間に渡る熱心な議論により、素晴らしい答申が完成したと思う。会長は、全ての会に出席していただいた。会長でなければここまでの答申は出来なかった。感謝申し上げる。